

千年の草原の継承と創造的活用総合特区 [指定：平成25年9月、認定：平成26年11月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(3.3+3.2) \div 2 = 3.3$

3.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	①草原面積、②野焼き再開牧野数	97%	5
2	①観光入り込み総数、②阿蘇地域の宿泊者数<<定性的評価>>	—	—
3	あか牛肉料理認定店数	90%	4
4	草原体験利用者数<<定性的評価>>	—	—
5	草原再生募金額	23%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) \div 5 = 3.3$

3.3

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 評価指標1は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が整合しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.2

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(2.3+3.8+3.0) \div 3 = 3.0$

3.0

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.8

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.0

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.0

- ・熊本地震の影響が尾を引いており、取組が成果に結びつかない点があることはやむを得ない。
- ・野焼きを通じた草原面積の維持・確保は軌道に乗っていると評価することができる。野焼き再開の増加牧野組合数については、高齢化が進む中で大変な取組だと思われるが、確実に増加が続いており望ましい成果となっている。
- ・観光客や宿泊客については自然災害等の外部要因の影響が大きいですが、その中で多々努力されている様子が窺える。
- ・あか牛料理認定店の数は、ここ4年増加することがなかったが、29年度には3店舗増加の63店舗となっており、活動努力の成果として評価できる。
- ・草原体験利用についてはプログラムの整備を行うとともに、その具体的な映像等をWEB上に公開するなどして、アピールを続けることを考えるとよい。
- ・募金額等は、復興目的の寄付やふるさと納税に流れている可能性がある。災害復興にかかる事業との連携や情報発信により、多くの人々に訴える取組が必要ではないか。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.0

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(3.3+3.0+3.0 \times 2) \div 4 = 3.1$

3.1

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。